

エコールみよた
Clip Board

朗読講座
受講体験談

味のある朗読を目指して!

フレンドリー図書館主催の「朗読講座基礎編」に参加しています。

講師は埼玉県在住の、元四国放送アナウンサー 庄野輝子先生で、確かな朗読指導は人気があります。

朗読とは、聞き手の存在を意識しながら、その文章の内容を理解し「正確に印象的に伝達する」ことです。実際にやってみると思っていたより簡単ではないし、奥が深いものですが、15名程の仲間と美しい日本語・味のある朗読を目指しています。皆さんも豊かな日本語による表現を体感してみませんか？

(町オフトーク担当 金澤)

問い合わせ先

フレンドリー図書館(32)0800



浅間縄文
ミュージアム
(32)8922

企画展「謎と美の縄文」

【内 容】5000年前の縄文土器や
土偶が紡ぐ、謎と美の世界。

【日 時】9月1日(日)まで好評開催中
午前9時30分～午後5時

【休館日】月曜日・祝日の翌日 8月は無休

【場 所】浅間縄文ミュージアム 企画展示室

【観覧料】町民大人300円、町民高校生以下無料



新潟県森上遺跡の火焰型土器

フレンドリー
図書館
(32)0800

YA(ヤングアダルト)コーナー
が生まれ変わりました!



YAとは、主に中高生を指し示す言葉です。ここには青少年向けの図書を置いています。明るく、居心地のよいスペースになりましたので、利用してみてください。

7月のおはなし会の予定

ちいさいおともだちのおはなし会(幼児向け)

7月4日(木)・18日(木) 10:30~11:00

おはなし会

7月13日(土) 10:30~11:00

昔がたりのおはなし会

7月20日(土) 10:30~11:00

～青少年は地域社会からはぐくむ～

伸びよう 伸ばそう 青少年

未来を担う青少年が社会における自らの役割と責任を自覚し、幅広い社会性と優れた創造力を培い、地域において心豊かにたくましく成長していくことは、すべての町民の願いです。

現在、少子高齢化が急速に進み、子どもたちを取り巻く家庭環境・教育環境、周囲の地域環境、そして日本全体の社会環境も大きく変わっています。

そして、近年の通信機器の普及もあいまって簡単に他者と繋がることのできる反面、そうした顔の見えない交流が“繋がりを希薄にする”とも言われ、核家族化、都市化等による従来からの課題と共に懸念されています。

ところで、大人の皆さんは、十代をどのように過ごされましたか？嬉しかったこと、悲しかったこと、悔しかったこと、感動したことなど、長い月日を経ても当時の記憶は鮮明に残ってはいませんか。

青少年といわれる年代は、その人物の人格、能力や体力が急激に成長する時期です。そんな大事な時にある青少年を犯罪から守り、また自発的に行動できるように手助けはできないのでしょうか。

そこで、「青少年は地域社会からはぐくむ」という観点に立ち、青少年のためのよりよい社会環境づくりを町民総ぐるみの運動として展開、推進していきたいと考えます。

7月の強化月間中の取り組みとしては、「あいさつ」を重点としたいと考えますので、町民こぞってあいさつを交わし合うことができるようお願いします。

なお、小中学校の児童会・生徒会も年間を通し、「あいさつ運動」に取り組んでいることを紹介しておきます。未来ある青少年のために、町民の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

問い合わせ先 教育委員会生涯学習係 (32)2770

はじめまして

絵本の世界

6月には「健康住宅の日」があります。健康住宅とは、地域の特徴、気候や風土に適した設計がされており、人に優しい住居であることが条件になっています。理想的な住宅ですね。

『すてきにへんな家』

家をつくる時には「願い」があります。例えば、身を守る、くつろぐ場所にしたたい、などですが、「願い」を形にした世界中の家が紹介されています。

地下にある家、水の上に浮かんでいる家、木の上に建てられた家などは、実在しています。変わったところだと、空き缶をリサイクルして壁に使った家や中国のドーナツ型の家がありますが、これも実在しています。作者が想像した家は、ダルマおとしのようだったり、花の形をしたものがあつたりとユニークです。

これからの未来、家はどんな形に変化していくのでしょうか。



『すてきにへんな家』
（たくさんのふしぎ傑作集）
タイガー立石／作
福音館書店

一般書

今月のおすすめの

一冊！！

『食う寝る遊ぶ小屋暮らし』

住宅建築家・中村好文さんが休暇を過ごすために作った小屋（山荘）が御代田にあります。

著者が、もともとあった空き家を増改築し、エネルギーの自給自足ができる住宅を実験的につくり始めたのは8年前のことです。エネルギーの自給自足ということは、電気、ガス、水道などのいわばライフラインにつながっていない、環境負荷の少ない家なのです。

著者は、「小屋の暮らしは不便や不自由と背中合わせ」と書いています。電力は風力と太陽光で発電し、水は雨水を浄化して使い、調理は炭火を燃料として七輪で行う。それを負しいと感じるか、豊かと感じるかが小屋の似合う人かそうでないかの分かれ目である、と。日常使うものが便利過ぎるほどになっていく一方、不便さは創意工夫の原動力であることを思い出させられます。



『食う寝る遊ぶ小屋暮らし』
中村好文／著
PHP研究所

BOOK
コーナー

ほんとに、いい出会い。